

小金井リベラルアーツセンター

【2025 年度 大学評価総評】

Halo（学修成果可視化システム、Hosei Assessment of learning Outcomes）を用いた学習成果の把握で、課題が明らかになった。各授業の GPCA 以外の情報の取得に苦戦していることから、今年度以降、Halo の操作方法や機能の一層の理解・習熟に期待したい。

教育課程およびその内容、教育方法の改善・向上では、理工学部・生命科学部執行部と連携して、現カリキュラム（2023 年度開始）へのスムーズな移行、学生の履修指導ができたことは、高く評価できる。また、コロナ禍により中止していた SA（スタディアブロード）について、2024 年度に再開したこと、さらに今後の拡充（新規に 2 コースを設定）の見通しを付けたことが、評価できる。一方、プレースメントテストの実施方法の改善については、継続して改善に取り組むことを期待したい。

教員・教員組織では、専任教員の新任採用人事を、理工学部・生命科学部と連携しながら実施していることが、評価できる。また、教養教育の在り方や推薦委員会設置について、学部と KLAC が相互に確認しており、協力体制がうまく機能していることが、高く評価できる。

今年度は、現カリキュラム（同前）の充実と、次期カリキュラム（2027 年度）の検討を、重点目標と定めており、着実な改善・向上に期待したい。

【2025 年度 自己点検・評価結果】

I. 改善・向上の取り組み

（1）2024 年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2024 年度大学評価結果総評】（参考）

また、小金井リベラルアーツセンター（KLAC）は、2023 年度からの新カリキュラムにおいて、リメディアル科目について拡充を図ると共に、学生モニターによるその効果を検証し、課題を明らかにし具体的な改善を図った積極的な取り組みは高く評価できる。

今後も両キャンパスにおいて各学部と円滑なコミュニケーションを図り、各キャンパスにおける教養教育の効果的な教育内容とその方法について具体的に充実を図ることを期待したい。また、両センターの豊富な人的リソースを活用した学生教育にも資する地域社会と大学をつなぐ教育サービスの開発を図ることが期待される。

【2024 年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

- ・2024 年度大学評価結果総評は、KLAC 運営委員会において関係者に共有した。
- ・さらなる教養教育の充実のため、ひきつづき新カリキュラムへのスムーズな移行をはかり、リメディアル科目等の運営を充実させるとともに、ラーニングサポーター制度や授業アシスタント制度を効果的に活用する。
- ・コロナ禍でのオンライン授業の経験をふまえ、教育効果の高い授業方法をさらに検討する。

（2）改善・向上の取り組み（教育課程およびその内容、教育方法）

<p>大学のディプロマ・ポリシーに示した学習成果を把握しましたか。結果をリベラルアーツセンターとしてどのように評価しましたか。</p> <p>＜対応する大学基準：学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価していること。＞</p>	<p>S. 学習成果が達成できていることが確認できた A. 学習成果が概ね達成できていることが確認できた B-1. 学習成果が達成できていないものがあつたことを確認できた B-2. 学習成果の達成度を確認するには、測定方法が不十分であることが確認できた B-3. ディプロマ・ポリシーの見直しの必要性を確認できた</p>	<p>B-2（学習成果の達成度を確認するには、測定方法が不十分であることが確認できた）</p>
<p>上記の選択をしたのはなぜですか。実施主体、測定対象や測定方法を踏まえて理由を具体的に記入してください。</p>		
<p>＜理由＞ 学習成果の把握について Halo を用いて評価しようと試みたが、各授業の GPCA しかわからず、どのように評価すべきか、どのような評価方法があるかを検討する必要がある、大変評価が難しいことがわ</p>		

かった。今後、Halo の操作方法や機能を理解することにより、評価方法を検討する予定である。

教育課程およびその内容、教育方法について、リベラルアーツセンターとして過去4年間（2021年度～2024年度）の中で特に改善・向上に向けて取り組んだ事例について、①～⑩の項目から「改善した項目」を選択し（レ点チェック）、その詳細について「改善内容」「改善した結果良かった点・課題」を記入してください。

＜対応する大学基準：教育課程及びその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。＞

事例	
「改善した項目」 （複数選択可）	<input checked="" type="checkbox"/> ①開講時期、開講頻度、授業時間等 <input checked="" type="checkbox"/> ②授業科目の内容（目標、内容、開設授業科目数、授業科目の統廃合） <input type="checkbox"/> ③授業科目の関係（各科目間の関係、ナンバリング、カリキュラムマップ、カリキュラムツリー、履修系統図等） <input checked="" type="checkbox"/> ④教育方法（授業の形態、授業方法等） <input type="checkbox"/> ⑤評価基準、評価方法 <input type="checkbox"/> ⑥学生の履修（履修科目の登録上限、履修順序、必修科目と選択科目の設定、配当年次等） <input checked="" type="checkbox"/> ⑦地域社会・国際社会・産業界等の社会との接続、大学院教育との接続 <input type="checkbox"/> ⑧学習支援（単位の実質化のための取り組み、各種相談・サポート、学生の主体的な学習を促す取り組み） <input checked="" type="checkbox"/> ⑨留学、インターンシップ、フィールドワーク等プログラムの充実 <input type="checkbox"/> ⑩その他
「改善内容」 ※理由を含めて記入してください。 2023年度から新カリキュラムをスタートさせ、開講時期や開講頻度の見直しや授業科目の統廃合を行い開設授業科目数の見直しを行った。コロナ禍におけるオンライン授業から対面での授業に授業形態が移行するにあたり、オンライン授業で培ったノウハウを利用して、対面授業に生かせる授業方法を検討した。リメディアル科目の履修推奨者を適切に選出できるよう、プレースメントテストの手順について議論した。地域社会との接続においてスポーツ交流事業の協力・支援を行った。2024年度からコロナ禍で中止していたSA（スタディアブロード）を再開し、継続して開催できるように開講コマの問題を解決した。	
「改善した結果良かった点・課題」 2023年度からの新カリキュラムについては、各分科会で履修状況等を確認し、理工学部・生命科学部執行部と連携して、学生の履修指導を行っており、スムーズな移行が行われている。プレースメントテストの実施方法をすぐに変えることは難しいとわかったため、課題として継続審議する。SAについては、新たに異なる二つのコースを設定して行う予定にしておき、そのためのコマを捻出して開講することが可能となり、プログラムの充実が図れた。	

（3）改善・向上の取り組み（教員・教員組織）

教員・教員組織について、リベラルアーツセンターとして特に「特色」として挙げられるもの、もしくは「課題」として今後改善に取り組んでいきたいものを「項目」の中から選択し、「内容」を記入してください。

- ・教員組織に対する取り組み※
 ※主に、教員が担う責任の内容、科目適合性の学内での判断、各教員の担当授業科目、担当授業時間の把握・管理（複数の所属、他大学・企業等との兼務教員について業務状況や教育効果含む）について
- ・教員の教育能力の向上、教育課程や授業方法の開発及び改善につながる組織的な取り組みとその成果
- ・授業における指導補助者（TA等）の活用に対する取り組み

＜対応する大学基準：教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を安定的にかつ十全に展開できる教員組織を編制し、学習成果の達成につながる教育の実現や大学として目指す研究上の成果につなげていること。＞

＜対応する大学基準：教育研究活動等の改善・向上、活性化につながる取り組みを組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上につなげていること。＞

＜対応する大学基準：教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。＞

「特色または課題」	特色
「項目」	教員組織に対する取り組み※主に、教員が担う責任の内容、科目適合性の学内での判断、各教員の担当授業科目、担当授業時間の把握・管理（複数の所属、他大学・企業等との兼務教員について業務状況や教育効果含む）について

《内容》
 理工学部・生命科学部・KLAC が共同して、専任教員の新任採用人事を実施しており、ポスト・コロナの KLAC 教養教育を推進するためにふさわしい教員組織の構築を目指している。「教養教育に関する申し合わせ」と「主として教養教育を担当する専任教員を採用する場合の推薦委員会設置の申し合わせ」を相互確認し、協力体制のもと、採用人事をすすめている。

II. 全学的な自己点検・評価結果より見出された重点的な評価項目

(1) 自由を生き抜く実践知を体現する取り組み

リベラルアーツセンターにおける「実践知」を体現する取り組みについて、改善・向上を図っていますか。 <small>《対応する大学基準：教育課程及びその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。》 《対応する大学基準：社会連携・社会貢献活動の状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。》</small>	S. さらに改善した又は新たに取り組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A (概ね従来通りである又は特に問題ない)
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
《内容》		

(2) オンライン教育の取り組み

オンライン授業は「2024 年度以降の授業編成における留意点について（報告）」(2023 年度第 6 回学部長会議資料 No. 7) に沿って、適した授業科目に用いられ、その有効性や教育効果を確認し、改善・向上を図っていますか。 <small>《対応する大学基準：教育課程及びその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。》</small>	S. さらに改善した又は新たに取り組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A (概ね従来通りである又は特に問題ない)
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
《内容》		

(3) 学生の声を活かした取り組み

リベラルアーツセンターのプログラムレベルにおいて、学生の声を活かした改善・向上を図っていますか。 <small>《対応する大学基準：教育課程及びその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。》</small>	S. さらに改善した又は新たに取り組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A (概ね従来通りである又は特に問題ない)
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
《内容》		
授業レベルにおいて、学生の声を活かした改善・向上を図っていますか。 <small>《対応する大学基準：教育課程及びその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。》</small>	S. さらに改善した又は新たに取り組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A (概ね従来通りである又は特に問題ない)
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
《内容》		

III. 2024 年度中期目標・年度目標達成状況報告書

評価基準	内部質保証	
中期目標	小金井教養教育に合った内部質保証体制を整える。	
年度目標	昨年度同様、運営委員会とは別に自己点検委員会を開催し、理系専門教育と教養教育の関連を考慮しながら自己点検を行い、内部質保証を維持する。	
達成指標	自己点検委員会を開催する	
年度末報告	執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	・自己点検委員会を3回にわたって開催し、理系専門教育と教養教育の関連を考慮しながら自己点検状況を検討した。
	改善策	・自己点検委員会を継続し、内部質保証を維持する。
評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】	
中期目標	カリキュラム変更（2023年度）をおこない、合わせて、学生の多様な価値観を育成するための教養教育の改善を図る。	
年度目標	引き続き、2023年度に開始した新カリキュラムへのスムーズな移行を図る。ラーニングサポーター制度、授業アシスタント制度、学生モニター制度を継続して活用する。リメディアル科目（入門数学、入門物理学、入門化学、入門生物学）の受講率の改善、教育方法・教育内容の改善について検討する。	
達成指標	各分科会では学生の履修状況の把握につとめるとともに、理工学部・生命科学部執行部と連携して、学生の履修指導を行う。ラーニングサポーター制度、授業アシスタント制度を活用し、有効な活用方法を検討する。学生モニター制度を利用し、多様な視点からの意見聴取をはかる。	
年度末報告	執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	<ul style="list-style-type: none"> ・数学分科会および理科分科会では、リメディアル科目の履修対象者決定にプレースメント・テストを活用した。学部執行部を通じて各学科から履修対象者に向けて、履修指導をおこなった。 ・理科分科会では、昨年度に引き続き、生命科学部と連携し、リメディアル科目に関する学生モニターを実施した。新カリキュラム開始に伴う科目の新設、クラス数の変更、時間割変更によって履修者数の偏りが生じないか、確認し、学部教授会で情報共有した。 ・リテラシー分科会では、「情報リテラシーと表現技術」の学習支援のために、ラーニング・サポーター制度を活用した。 ・合計33の授業で、授業支援アシスタント制度を活用した。 ・学生モニター制度を活用し、教養教育カリキュラムの履修状況や専門教育との接続、対面授業とオンライン授業のメリット、履修登録や抽選科目について、学生の意識調査を実施した。
	改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・数学分科会および理科分科会では、引き続き、リメディアル科目の履修対象者決定にプレースメント・テストの成績を活用するとともに、その結果を収集・分析する。 ・引き続き、ラーニング・サポーター制度および授業アシスタント制度の有効な活用方法を検討する。 ・リメディアル科目の受講対象者に対して、各学科から履修を指示または推奨するとともに、リメディアル科目の教育方法・教育内容の改善について検討する。
評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】	
中期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教員による相互チェック体制の充実を図る。 ・ポスト・コロナを見据えて、COVID-19の感染状況にフレキシブルに対応できる、効果的な授業形態・教育方法を検討する。 	
年度目標	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参観の充実をはかる。 ・授業形態と学習効果について、学生モニターから情報を収集する。 	

		<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の経験をふまえ、対面はもちろんオンライン授業のメリットを活用するべく、教育効果の高い授業の実施方法について、適宜議論する。
達成指標		<ul style="list-style-type: none"> ・授業相互参観と学生モニターを実施し、授業形態・教育方法についての意見聴取を行う。 ・各授業形態の科目数、各科目の受講人数を調べ、各分科会で各授業形態の教育効果を検討する。
年度末報告	執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	<ul style="list-style-type: none"> ・分科会をまたいだものも含めて、計8科目で授業相互参観を実施した。 ・理科分科会では、物理系科目、化学系科目において法政大学情報メディア教育研究センターとの連携で、新しい教育形態の模索のひとつとして、水素原子軌道可視化VR（バーチャル）アプリケーション「Virtual Hydrogen」の導入を検討し、物理系科目ではデモ授業を実施した。 ・リメディアル科目は受講を推奨しても受講をしない学生が多く、途中で脱落する学生も多いなどの問題点があった。理科分科会ではこの2年間リメディアル科目に対して、集中的に授業相互参観を実施し、授業内容について授業担当者と意見交換するとともに交流を深めた。入門化学については時間割（春月1限）の後に、学科の必修科目を入れて学生が受講しやすい時間割に変更した。さらに、昨年度の学生モニターにおいて負担が多いとの声があったことを受けて、課題量の調整、教育内容の厳選などの工夫をしたところ、履修者数の伸びはまだみられないが、最後まで履修を完了する学生が入門化学と入門生物学では多くみられた。
	改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・教育方法の改善や教育効果の確認において、引き続き授業相互参観や学生モニター制度を活用する。
評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】	
中期目標	教育の効果の測定のため、継続して成績データの収集と分析を行う。	
年度目標	<ul style="list-style-type: none"> ・2023年度に開始した生命科学部対象の理系リメディアル科目履修者の成績追跡調査等により、教育方法・教育内容の改善について検討する。 ・英語分科会では、継続してTOEICを実施する。 ・数学分科会では、引き続き、期末試験で統一試験を行い、統一試験を行った科目の素点データを収集・分析する。 	
達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ・数学分科会および理科分科会では、リメディアル科目の履修対象者決定にプレースメント・テストの成績を活用する。また、プレースメント・テストの結果を収集・分析する。理科分科会では、リメディアル科目受講後の学生の成績を学科にフィードバックする。 ・英語分科会では、1年次4月と12月、および2年次12月にTOEICを実施する。また英語プロジェクト委員会などでその結果を共有し、分析する。 ・数学分科会では、統一試験を行った科目の素点データを収集・分析する。 	
年度末報告	執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	<ul style="list-style-type: none"> ・数学分科会および理科分科会では、リメディアル科目の履修対象者決定にプレースメント・テストを活用した。さらに、結果を収集・分析し、報告会で情報を共有した。その中でオンライン受検での受検環境が異なることによる問題が浮かび上がり、学部執行部とKLACでプレースメントテストの実施方法について、学科等に意見聴取をおこなった。 ・理科分科会では、生命科学部の入学生・2年生に対して、リメディアル科目を受講後の理系教養科目、専門科目の成績の追跡を実施し、学部執行部と情報共有をした。受講対象者であったにも関わらず受講しなかった学生の成績も含め同時に追跡した。 ・英語分科会では予定通りTOEICを実施し、そのスコアを英語プロジェクト委員会

		<p>において共有、分析した。具体的には高得点者には、中級・上級英語科目の履修を促す案内を配信したり、一定の基準を満たすスコアの取得者に、単位認定やボーナス点の付与などを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数学分科会では、リメディアル科目の履修対象者決定にプレイスメントテストが活用されている。また、プレイスメントテスト結果報告会を通じて、結果の収集・分析を行った。また、春秋の両学期で統一試験を行い、統一試験を行った科目の素点データを収集・分析した。
	改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・数学分科会では、引き続き、リメディアル科目の履修対象者決定にプレイスメントテストの成績を活用してもらうとともに、プレイスメント・テストの結果を収集・分析する。また、引き続き、統一試験を行った科目の素点データを収集・分析する。 ・英語分科会では、TOEIC 高点取得者の英語力をさらに伸ばす方策を検討する。
	評価基準	教員・教員組織
	中期目標	学部と協調し適正な教員採用・配置を進める。
	年度目標	理工学部・生命科学部・KLAC が共同して、専任教員の新任採用人事を複数実施し、ポスト・コロナの KLAC 教養教育を推進するためにふさわしい教員組織を構築する。情報科学部とも意見交換、情報共有をする。
	達成指標	昨年度改訂した「教養教育に関する申し合わせ」と「主として教養教育を担当する専任教員を採用する場合の推薦委員会設置の申し合わせ」を相互確認し、協力体制のもと、採用人事をすすめる。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度改訂した「教養教育に関する申合せ」と「主として教養教育を担当する専任教員を採用する場合の推薦委員会設置の申合せ」により 3 件の採用人事を行った。 ・毎回の KLAC 運営委員会に情報科学部長と教授会主任が交互にオブザーバー出席し、情報共有を図った。
	改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、理工学部・生命科学部執行部が協働して教養教育における教員組織の充実に努めるとともに、情報科学部執行部との情報交換を実施する。
	評価基準	教育研究等環境
	中期目標	COVID-19 の感染状況にフレキシブルに対応できる、より効果的な授業設計を図るために、必要な教育研究環境を検討する。
	年度目標	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍での経験をふまえ、対面はもちろんオンライン授業のメリットを活用するべく、教育効果の高い授業の実施方法について、適宜議論する。 ・理科分科会では科学実験のフィードバック体制を活用し、早期において、学生の問題点や課題の発見に務める。
	達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ・対面授業とハイフレックス授業の教育研究環境について、各分科会の意見を聴取する。 ・新規採用教員などを対象に、対面授業およびハイフレックス授業実施のためのサポートを継続する。 ・科学実験受講者の出欠状況、成績状況、科学実験独自アンケートなどを受講対象の学科に提供する。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン授業やハイフレックス授業実施へのサポートが必要な兼任講師に対しては、各分科会が中心となり、職員の協力を得て、適宜支援をおこなった。 ・専任教員が担当している一部の科学実験のクラスにおいては、受講者の出欠状況、レポート提出状況、成績状況、科学実験独自アンケートなどを受講対象の学科に提供し、学生の問題の早期発見・早期解決に貢献した。
	改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、ハイフレックス授業で培ったノウハウを活用する。

評価基準	社会連携・社会貢献	
中期目標	行政や地域団体との連携を強化して、交流事業の継続的实施や新たな企画について検討し、地域との交流を深める。	
年度目標	・「地域とのスポーツ交流事業」の開催と「地域スポーツイベント支援事業」への協力・支援を継続する。	
達成指標	・地域とのスポーツ交流事業「卓球大会」「軟式野球教室」の開催および地域スポーツイベント「野川駅伝大会」への協力・支援をおこなう。	
年 度 末 報 告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	・スポーツ交流事業（黄金井倶楽部共催）「親睦卓球大会（2024年11月）および「中学生軟式野球教室（2024年12月）」を実施した。 ・支援事業として地域スポーツイベント「野川駅伝大会（2025年1月）」に大学より法政水（1,070本）を提供した。
	改善策	・地域とのスポーツ交流事業を継続していくためには実施場所の確保が大きな課題となっており、緑町グラウンドの利用を含め引き続き検討を要する。
<p>【重点目標】 理工学部・生命科学部・KLACが共同して、「主として教養教育を担当する」専任教員の新任採用人事を複数実施し、ポスト・コロナのKLAC教養教育を推進するためにふさわしい教員組織を構築する。情報科学部とも意見交換、情報共有をする。</p> <p>【目標を達成するための施策等】 改訂した「教養教育に関する申し合せ」「主として教養教育を担当する専任教員を採用する場合の推薦委員会設置の申し合わせ」をKLACならびに理工学部、生命科学部で確認しながら、複数の採用人事をすすめる。</p>		
<p>【年度目標達成状況総括】 内部質保証について、自己点検委員会を開催し理系専門教育と教養教育の関連を考慮しながら自己点検を行った。教育課程・学習成果について、リメディアル科目でプレースメント・テストの結果を分析することで受講者の決定に活用した。リメディアル科目履修者の理系教養科目および専門科目の成績調査を実施し、学部執行部と情報を共有した。また、複数の科目でラーニング・サポーター制度および授業アシスタント制度を活用するとともに、特に学生モニター制度を活用してリメディアル科目の教育効果を検討した。さらに、リメディアル科目の授業相互参観を実施し、授業内容について授業担当者との意見交換を行った。教育研究等環境について、科学実験履修者の成績状況やアンケート結果を活用し、問題の早期発見や解決に貢献した。社会貢献・社会連携について、スポーツ交流事業を開催した。教員・教員組織について、昨年度改訂された「教養教育に関する申し合せ」と「主として教養教育を担当する専任教員を採用する場合の推薦委員会設置の申し合せ」に従って、3件の採用人事を滞りなく遂行し、今年度の重点目標を十分達成した。</p>		

IV. 2025年度中期目標・年度目標

評価基準	内部質保証
中期目標	小金井教養教育に合った内部質保証体制を整える。
年度目標	昨年度同様、運営委員会とは別に自己点検委員会を開催し、理系専門教育と教養教育の関連を考慮しながら自己点検を行い、内部質保証を維持する。
達成指標	自己点検委員会を開催する。
評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
中期目標	カリキュラム変更（2023年度）をおこない、合わせて、学生の多様な価値観を育成するための教養教育の改善を図る。
年度目標	引き続き、2023年度に開始した新カリキュラムへのスムーズな移行を図るとともに、2027年度のカリキュラム変更に向けた方向性を理工学部・生命科学部執行部と検討していく。ラーニングサポーター制度、授業アシスタント制度、学生モニター制度を継続

	して活用する。リメディアル科目（入門数学、入門物理学、入門化学、入門生物学）の受講率の改善、教育方法・教育内容の改善について検討する。
達成指標	各分科会では学生の履修状況の把握につとめるとともに、理工学部・生命科学部執行部と連携して、学生の履修指導を行う。ラーニングサポーター制度、授業アシスタント制度を活用し、有効な活用方法を検討する。学生モニター制度を利用し、多様な視点からの意見聴取をはかる。
評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
中期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教員による相互チェック体制の充実を図る。 ・ポスト・コロナを見据えて、COVID-19の感染状況にフレキシブルに対応できる、効果的な授業形態・教育方法を検討する。
年度目標	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参観の充実をはかる。 ・授業形態と学習効果について、学生モニターから情報を収集する。 ・コロナ禍の経験をふまえ、対面はもちろんオンライン授業のメリットを活用するべく、教育効果の高い授業の実施方法について、適宜議論する。
達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ・授業相互参観と学生モニターを実施し、授業形態・教育方法についての意見聴取を行う。 ・各授業形態の科目数、各科目の受講人数を調べ、各分科会で各授業形態の教育効果を検討する。
評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
中期目標	教育の効果の測定のため、継続して成績データの収集と分析を行う。
年度目標	<ul style="list-style-type: none"> ・2023年度に開始した生命科学部対象の理系リメディアル科目履修者の成績追跡調査等により、教育方法・教育内容の改善について検討する。 ・英語分科会では、継続してTOEICを実施する。 ・数学分科会では、引き続き、期末試験で統一試験を行い、統一試験を行った科目の素点データを収集・分析する。
達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ・数学分科会および理科分科会では、リメディアル科目の履修対象者決定にプレースメント・テストの成績を活用する。また、プレースメント・テストの結果を収集・分析する。理科分科会では、リメディアル科目受講後の学生の成績を学科にフィードバックする。 ・英語分科会では、1年次4月と12月、および2年次12月にTOEICを実施する。また英語プロジェクト委員会などでその結果を共有し、分析する。 ・数学分科会では、統一試験を行った科目の素点データを収集・分析する。
評価基準	教員・教員組織
中期目標	学部と協調し適正な教員採用・配置を進める。
年度目標	理工学部・生命科学部・KLACが共同して、専任教員の新任採用人事を実施し、ポスト・コロナのKLAC教養教育を推進するためにふさわしい教員組織を構築する。情報科学部とも意見交換、情報共有をする。
達成指標	昨年度改訂した「教養教育に関する申し合わせ」と「主として教養教育を担当する専任教員を採用する場合の推薦委員会設置の申し合わせ」を相互確認し、協力体制のもと、採用人事をすすめる。
評価基準	教育研究等環境
中期目標	COVID-19の感染状況にフレキシブルに対応できる、より効果的な授業設計を図るために、必要な教育研究環境を検討する。
年度目標	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍での経験をふまえ、対面はもちろんオンライン授業のメリットを活用するべく、教育効果の高い授業の実施方法について、適宜議論する。 ・理科分科会では科学実験のフィードバック体制を活用し、早期において、学生の問題点や課題の発見に務める。
達成指標	・対面授業とハイフレックス授業の教育研究環境について、各分科会の意見を聴取する。

	<ul style="list-style-type: none"> ・新規採用教員などを対象に、対面授業およびハイフレックス授業実施のためのサポートを継続する。 ・科学実験受講者の出欠状況、成績状況、科学実験独自アンケートなどを受講対象の学科に提供する。
評価基準	社会連携・社会貢献
中期目標	行政や地域団体との連携を強化して、交流事業の継続的实施や新たな企画について検討し、地域との交流を深める。
年度目標	・「地域とのスポーツ交流事業」の開催と「地域スポーツイベント支援事業」への協力・支援を継続する。
達成指標	・地域とのスポーツ交流事業「卓球大会」「軟式野球教室」の開催および地域スポーツイベント「野川駅伝大会」への協力・支援をおこなう。
<p>【重点目標】 2023 年度に開始した新カリキュラムへのスムーズな移行を図るとともに、2027 年度の新カリキュラムに向けた方向性を理工学部・生命科学部執行部と検討していく。また、理工学部・生命科学部・KLAC が共同して、「主として教養教育を担当する」専任教員の新任採用人事を実施し、ポスト・コロナの KLAC 教養教育を推進するためにふさわしい教員組織を構築する。</p> <p>【目標を達成するための施策等】 2023 年度からの新カリキュラムの有効性を検証するために、各分科会において、学生の履修状況の把握につとめるとともに、理工学部・生命科学部執行部と連携して、学生の履修指導を行う。学生モニター制度等を利用し、多様な視点からの意見聴取をはかり、2027 年度のカリキュラム変更の方向性について理工学部・生命科学部執行部と検討していく。また、改訂した「教養教育に関する申し合せ」「主として教養教育を担当する専任教員を採用する場合の推薦委員会設置の申し合わせ」を KLAC ならびに理工学部、生命科学部で確認しながら、採用人事をすすめる。</p>	

IV-2. 2025年度中期目標・年度目標達成状況報告書

小金井リベラルアーツセンター

評価基準	中期目標 (2022-2025年度)	年度目標	達成指標	年度末報告		
				教授会執行部による点検・評価（教授会承認）		
				自己評価	理由	改善策
内部質保証	小金井教養教育に合った内部質保証体制を整える。	昨年度同様、運営委員会とは別に自己点検委員会を開催し、理系専門教育と教養教育の関連を考慮しながら自己点検を行い、内部質保証を維持する。	自己点検委員会を開催する。	A	・自己点検委員会を4回にわたって開催し、理系専門教育と教養教育の関連を考慮しながら自己点検状況を検討した。	・自己点検委員会を継続し、内部質保証を維持する。
教育課程・学習成果 【教育課程・教育内容に関すること】	カリキュラム変更（2023年度）をおこない、合わせて、学生の多様な価値観を育成するための教養教育の改善を図る。	引き続き、2023年度に開始した新カリキュラムへのスムーズな移行を図るとともに、2027年度のカリキュラム変更に向けた方向性を理工学部・生命科学部執行部と検討していく。ラーニングサポーター制度、授業アシスタント制度、学生モニター制度を継続して活用する。リメディアル科目（入門数学、入門物理学、入門化学、入門生物学）の受講率の改善、教育方法・教育内容の改善について検討する。	各分科会では学生の履修状況の把握につとめるとともに、理工学部・生命科学部執行部と連携して、学生の履修指導を行う。ラーニングサポーター制度、授業アシスタント制度を活用し、有効な活用方法を検討する。学生モニター制度を利用し、多様な視点からの意見聴取をはかる。	S	・理科分科会では、昨年度に引き続き、生命科学部と連携し、リメディアル科目に関する学生モニターを実施した。また、リメディアル科目の履修対象者決定にプレースメント・テストを活用した。さらに、科学実験の履修率が低迷していた理工学部の一部の学科において、他の授業を科学実験と同日に設定するという時間割上の工夫を行ったところ、昨年度に比べて履修率が1.5倍以上に改善した。 ・リテラシー分科会では、「情報リテラシーと表現技術」の学習支援のために、ラーニング・サポーター制度を活用した。 ・合計33の授業で、授業支援アシスタント制度を活用した。 ・学生モニター制度を活用し、教養教育カリキュラムの履修状況や専門教育との接続、対面授業とオンライン授業のメリット、履修登録や抽選科目について、学生の意識調査を実施した。	・理科分科会では、引き続き、リメディアル科目の履修対象者決定にプレースメント・テストの成績を活用するとともに、その結果を収集・分析する。 ・リメディアル科目の受講対象者に対して、各学科から履修を指示または推奨するとともに、リメディアル科目の教育方法・教育内容の改善について検討する。 ・時間割の工夫による履修状況の改善が見られたことから、授業の中身の改善にとどまらず、各学部学科と協力した時間割の最適化も有効だと考えられる。引き続き各学部学科と連携し、教養科目履修状況の観点でも望ましい時間割の検討を行う。 ・引き続き、ラーニング・サポーター制度および授業アシスタント制度の有効な活用方法を検討する。
教育課程・学習成果 【教育方法に関すること】	・教員による相互チェック体制の充実を図る。 ・ポスト・コロナを見据えて、COVID-19の感染状況にフレキシブルに対応できる、効果的な授業形態・教育方法を検討する。	・授業参観の充実をはかる。 ・授業形態と学習効果について、学生モニターから情報を収集する。 ・コロナ禍の経験をふまえ、対面はもちろんオンライン授業のメリットを活用するべく、教育効果の高い授業の実施方法について、適宜議論する。	・授業相互参観と学生モニターを実施し、授業形態・教育方法についての意見聴取を行う。 ・各授業形態の科目数、各科目の受講人数を調べ、各分科会で各授業形態の教育効果を検討する。	S	・分科会をまたいだものも含めて、計11科目で授業相互参観を実施した。 ・理科分科会では、物理系科目、化学系科目において法政大学情報メディア教育研究センターとの連携で、新しい教育形態の模索のひとつとして、水素原子軌道可視化VR（バーチャル）アプリケーション「Virtual Hydrogen」の導入を検討し、物理系科目ではデモ授業を実施した。このデモ授業は2024年度に引き続き2年目であるが、昨年度よりも表示電子軌道を厳選する代わりに、より視覚的にわかりやすい工夫を導入した。VR体験を希望する学生が増え、理解度も向上し、連携による教育効果の改善が見られた。 ・リメディアル科目は受講を推奨しても受講をしない学生が多く、途中で脱落する学生も多いなどの問題点があった。理科分科会ではこの2年間リメディアル科目に対して、集中的に授業相互参観を実施し、授業内容について授業担当者と意見交換するとともに交流を深めた。	・教育方法の改善や教育効果の確認において、引き続き授業相互参観や学生モニター制度を活用する。 ・情報メディア教育研究センターとの連携により、教育効果の改善が現れている。引き続きデモ教材の改善やセンターとの連携を強化していく。
教育課程・学習成果 【学習成果に関すること】	教育の効果の測定のため、継続して成績データの収集と分析を行う。	・2023年度に開始した生命科学部対象の理系リメディアル科目履修者の成績追跡調査等により、教育方法・教育内容の改善について検討する。 ・英語分科会では、継続してTOEICを実施する。 ・数学分科会では、引き続き、期末試験で統一試験を行い、統一試験を行った科目の素点データを収集・分析する。	・数学分科会および理科分科会では、リメディアル科目の履修対象者決定にプレースメント・テストの成績を活用する。また、プレースメント・テストの結果を収集・分析する。理科分科会では、リメディアル科目受講後の学生の成績を学科にフィードバックする。 ・英語分科会では、1年次4月と12月、および2年次12月にTOEICを実施する。また英語プロジェクト委員会などでその結果を共有し、分析する。 ・数学分科会では、統一試験を行った科目の素点データを収集・分析する。	S	・リメディアル科目の履修対象者決定にプレースメント・テストの成績が活用された。理科分科会では、結果を収集・分析し、報告会で情報を共有した。数学分科会では、プレースメント・テスト結果報告会を通じて、結果の収集・分析を行った。また、春秋の両学期で統一試験を行い、統一試験を行った科目の素点データを収集・分析した。 ・理科分科会では、生命科学部の入学生・2年生に対して、リメディアル科目を受講後の理系教養科目、専門科目の成績の追跡を実施し、学部執行部と情報共有をした。受講対象者であったにも関わらず受講しなかった学生の成績も含め同時に追跡した。 ・英語分科会では予定通り、2回のTOEICを実施し、その結果を英語プロジェクト委員会にて共有した。また、TOEICのオンライン化に伴い、平均点が上昇している点を考慮し、TOEICスコアによる成績優遇制度の基準の見直しを行った。	・数学分科会では、引き続き、リメディアル科目の履修対象者決定にプレースメント・テストの成績を活用してもらうとともに、プレースメント・テストの結果を収集・分析する。また、引き続き、統一試験を行った科目の素点データを収集・分析する。 ・理科分科会では、引き続き、リメディアル科目の履修対象者決定にプレースメント・テストの成績を活用してもらうとともに、プレースメント・テストの結果を収集・分析する。 ・英語分科会では、TOEIC高点取得者の英語力をさらに伸ばす方策を検討する。

評価基準	中期目標 (2022-2025年度)	年度目標	達成指標	年度末報告		
				教授会執行部による点検・評価（教授会承認）		
				自己評価	理由	改善策
教員・教員組織	学部と協調し適正な教員採用・配置を進める。	理工学部・生命科学部・KLACが共同して、専任教員の新任採用人事を実施し、ポスト・コロナのKLAC教養教育を推進するためにふさわしい教員組織を構築する。情報科学部とも意見交換、情報共有をする。	昨年度改訂した「教養教育に関する申し合わせ」と「主として教養教育を担当する専任教員を採用する場合の推薦委員会設置の申し合わせ」を相互確認し、協力体制のもと、採用人事をすすめる。	A	・一昨年度改訂した「教養教育に関する申し合わせ」と「主として教養教育を担当する専任教員を採用する場合の推薦委員会設置の申し合わせ」によりスポーツ健康科学分科会の採用人事を行った。 ・毎回のKLAC運営委員会に情報科学部長と教授会主任が交互にオブザーバー出席し、情報共有を図った。	・引き続き、理工学部・生命科学部執行部が協働して教養教育における教員組織の充実に努めるとともに、情報科学部執行部との情報交換を実施する。
教育研究等環境	COVID-19の感染状況にフレキシブルに対応できる、より効果的な授業設計を図るために、必要な教育研究環境を検討する。	・コロナ禍での経験をふまえ、対面はもちろんオンライン授業のメリットを活用するべく、教育効果の高い授業の実施方法について、適宜議論する。 ・理科分科会では科学実験のフィードバック体制を活用し、早期において、学生の問題点や課題の発見に務める。	・対面授業とハイフレックス授業の教育研究環境について、各分科会の意見を聴取する。 ・新規採用教員などを対象に、対面授業およびハイフレックス授業実施のためのサポートを継続する。 ・科学実験受講者の出欠状況、成績状況、科学実験独自アンケートなどを受講対象の学科に提供する。	S	・オンライン授業やハイフレックス授業実施へのサポートが必要な兼任講師に対しては、各分科会が中心となり、職員の協力を得て、適宜支援をおこなった。 ・専任教員が担当している一部の科学実験のクラスにおいては、受講者の出欠状況、レポート提出状況、成績状況、科学実験独自アンケートなどを受講対象の学科に提供し、学生の問題の早期発見・早期解決に貢献した。 ・科学実験において、新入生入学者増(履修者増)をきっかけとして実験機材の充足を進めた。これにより、大人数の受講者に対して対応力を強化できたとともに、例年並みの受講者数であった場合も、一人当たりが占有できる実験装置が増えたことになり、実験科目の教育環境として学習効果を向上することができた。	・引き続き、ハイフレックス授業で培ったノウハウを活用する。
社会貢献・社会連携	行政や地域団体との連携を強化して、交流事業の継続的实施や新たな企画について検討し、地域との交流を深める。	・「地域とのスポーツ交流事業」の開催と「地域スポーツイベント支援事業」への協力・支援を継続する。	・地域とのスポーツ交流事業「卓球大会」「軟式野球教室」の開催および地域スポーツイベント「野川駅伝大会」への協力・支援をおこなう。	A	・スポーツ交流事業（黄金井倶楽部共催）「親睦卓球大会（2025年11月）」を実施した。 ・スポーツ交流事業（黄金井倶楽部共催）「中学生軟式野球教室（2025年12月）」を開催した。 ・支援事業として地域スポーツイベント「野川駅伝大会（2026年1月）」に小金井キャンパスより法政水を提供した。	・地域とのスポーツ交流事業を継続していくためには専門種目の担当講師（野球は担当者が定年退職）、実施場所の確保が大きな課題となっている。 継続的に実施するために外部講師、実施種目の再検討が必要である。

自己評価について

- S 目標を十分達成し、質の向上が顕著である。
- A 目標をほぼ達成し、質の向上が見られる。
- B 目標の達成が不十分である。
- C 目標が達成できていない。

【重点目標】	【目標を達成するための施策等】
2023年度に開始した新カリキュラムへのスムーズな移行を図るとともに、2027年度の新カリキュラムに向けた方向性を理工学部・生命科学部執行部と検討していく。また、理工学部・生命科学部・KLACが共同して、「主として教養教育を担当する」専任教員の新任採用人事を実施し、ポスト・コロナのKLAC教養教育を推進するためにふさわしい教員組織を構築する。	2023年度からの新カリキュラムの有効性を検証するために、各分科会において、学生の履修状況の把握につとめるとともに、理工学部・生命科学部執行部と連携して、学生の履修指導を行う。学生モニター制度等を利用し、多様な視点からの意見聴取をはかり、2027年度のカリキュラム変更の方向性について理工学部・生命科学部執行部と検討していく。また、改訂した「教養教育に関する申し合せ」「主として教養教育を担当する専任教員を採用する場合の推薦委員会設置の申し合わせ」をKLACならびに理工学部、生命科学部で確認しながら、採用人事をすすめる。
【年度目標達成状況総括】	
<p>内部質保証について、自己点検委員会を開催し理系専門教育と教養教育の関連を考慮しながら自己点検を行った。教育課程・学習成果について、リメディアル科目でプレースメント・テストの結果を分析することで受講者の決定に活用した。リメディアル科目履修者の理系教養科目および専門科目の成績調査を実施し、学部執行部と情報を共有した。また、複数の科目でラーニング・サポーター制度および授業アシスタント制度を活用するとともに、特に学生モニター制度を活用してリメディアル科目の教育効果を検討した。さらに、リメディアル科目の授業相互参観を実施し、授業内容について授業担当者との意見交換を行った。教育研究等環境について、科学実験履修者の成績状況やアンケート結果を活用し、問題の早期発見や解決に貢献した。社会貢献・社会連携について、スポーツ交流事業を開催した。教員・教員組織について、一昨年度改訂された「教養教育に関する申し合せ」と「主として教養教育を担当する専任教員を採用する場合の推薦委員会設置の申し合せ」に従って、スポーツ健康科学分科会の採用人事を滞りなく遂行し、今年度の重点目標を十分達成した。</p>	